

生物多様性保全実習報告

2014年9月17～19日の3日間、裏磐梯地域で生物多様性実習を行いました。今回の実習は受講生8名、教員3名、ティーチング・アシスタントの大学院生5名、スタディ・リエゾンの4年生2名で行いました。

初日は秋元湖東岸の湿地生植物群落で带状コドラート調査を行い、陸域から水域までの植生変化の記録を行いました。1班4人に分かれ陸域から水域までメジャーを引き5m間隔ごとに1m×1mのコドラートを設置し、コドラート内の種構成と被度(%)を記録しました。最初は生育している植物がわからなく戸惑っていた実習生も、徐々に慣れ絶滅危惧種の水草を見つけたり、積極的に他の班員と協力して調査を行っていました。

2日目は、外来種の駆除作業を行いました。午前には柳沼で、要注意外来種のキショウブとコカナダモの駆除を行いました。キショウブの駆除には根茎ごと掘り返す必要がありますが、根茎は地中で長く伸びることに加えて折れやすく駆除の難しさを感じました。午後は曲沢沼で地元住民の他に福島県の水・大気環境課、環境省の保護官、裏磐梯ビジターセンターの職員、パークボランティアの方々と共に約40人でコカナダモの駆除を行いました。約4時間の駆除の結果、手前側のコカナダモが消え後方の景色が映り込むようになりました。しかし、水深の深いところなど、沼の大部分はまだコカナダモに覆われており、完全な駆除には時間がかかりそうだと思います。

最終日は、秋元湖で水生植物群落の調査を行いました。初日より水深が深い場所で2m×2mのコドラートを3箇所設置し、抽水・浮葉・沈水それぞれの群落の水生植物の種構成と被度(%)を記録しました。実習の最後にはフローターを使って、湖を泳ぎました。実習を通して裏磐梯地域には、多くの絶滅危惧種が生育する一方で外来種も多く侵入していることを感じました。貴重な自然を守って行けるように今後も活動を続けて行きたいと思います。

報告 黒沢研究室修士1年 渡邊



1日目、带状コドラート調査風景



2日目、曲沢沼でのコカナダモ駆除風景



コカナダモ駆除前の曲沢沼(上)と駆除後の曲沢沼(下)。コカナダモが消え、風景が映る範囲が増えた。